

* 昨年8月に、これまでの市役所生活で得た私見を「市役所職員を全うするための心・技・体」(TTS新書)という書籍にまとめた。参考にいただければ幸いです。

市役所と医師会との橋渡しや、相互協力関係の構築、地域の保健・医療の推進発展に寄与することを命題とし、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るうなか第二の人生をスタートさせた。



本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第38回

コロナに立ち向かい 難局克服へ

の戦いができる。ワクチン」を武器に、難局克服のために医師が踏ん張る時」と位置付け、医学的な知見に基づき市職員と一緒に議論し、検討を重ねてスムーズになワクチン接種に向けて奮闘して

いる。しかし、市町村によっては、これまで経験したことがない大規模なワクチン接種事業に、予防接種担当の保健師や看護師などの専門職が任せられ、冷蔵輸送やWeb予約をはじめ各種契約事務など、多くの事務事業に戸惑っている事例もあると聞く。

ワクチンの注射器充填を申し出たりするなか、市長も、社会保険制度における扶養の収入限度内で働く看護師等が躊躇なく事業協力ができるよう、臨時的かつ柔軟な扶養認定の運用について情報収集や制度確認に一肌脱ぐなど、相互の協力関係が本当に素晴らしい。

また、多くの市町村では接種期間における安定的な医療人材確保が危惧されているが、門真市においては、普段は予防接種に従事されていらない診療科の医師や看護師にも積極的に協力してもらえらるよう、予防接種の手技確認や、急な副反応への対応に関する研修会を行うなど、医師会の使命として責任を持って接種従事者を確保するという覚悟で奔走している。

このように市町村が実施主体となり、多くの協力で支えられながら進められている市民へのワクチン接種により、コロナウイルスに対する不安が解消され、安定した日常の医療体制を取り戻し、当たり前の社会経済活動が実現できることで、市民よし、医療よし、行政よしの「三方よし」となるように、それぞれの立場でもう少し踏ん張っていききたい。

使命感と責任さらに協力関係へ

これら力強い協力のベクトルをまとめる扇の要となつて、マネージメントを行うのが市町村の役割であるが、様々な事態を想定して綿密に計画され、万全の備えで臨む事業であっても、現場では何が起るかわからない。想定外の事態に対応するため、関係各部署との内なる連携関係にも配慮して備えるなど、事業が終了するまでは一瞬たりとも気が抜けない。

第二の人生への第一歩

社会人になって今年で41年目となる。39年間の市役所生活を無事に終え(※)、昨年4月に医師会事務局で勤務することとなった。

見えない敵に、攻めぬの戦い

私の勤務する医師会では、これまで医療崩壊を防ぎ地域医療を守るといふ立場で見えない敵と戦ってきたが、ウイルスに対して攻め